

新型コロナウイルス (COVID-19) 感染症流行期における ベッド上 ポジショニング基本スキル

窓を開け、換気と体の保温など、環境を調整する 全身状態の観察
実施は、接触・飛沫感染のリスクを考え、退避行動に心がける

標準予防策、手指衛生（手洗い・アルコール）

*厚生労働省、各学会指針、所属施設等の方針に沿う

患者準備：ベッド クッション3個（①両上肢2・②足底用）

バスタオル2枚（③④頭頸部調整・足底接地用）⑤タオル

食事、介助時柄長スプーン 手の消毒用シート

介助者準備：マスク 手袋（ディスポエプロン）

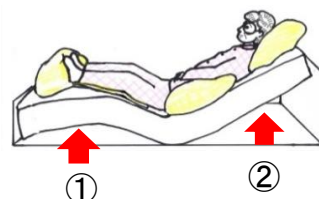
感染リスク有⇒フェイスシールド ゴーグル ガウン



ポジショニングの実際 接触・密着を最小限、短時間で実施、チームでトレーニング！

1. ポジショニング準備と声かけをする ○は根拠・ポイント

- ・ベッドの高さを、介助者の大腿中央に設定（ボディメカニクス）
- ・臀部下縁をベッド可動軸より上に移動（ずれ予防）
- ・両脇にクッションを密着させる（体幹の安定）
- ・足底をクッション（枕）に接地させる（嚙下力強化）



2. ベッドを挙上し、体の圧を軽減する

- ・ベッド操作：①足↑②上体↑③足↓（ずれ防止）
- ・正確なリクライニング位を確認する（角度計アプリ利用）
（全介助30～45度）（一部介助45度～60度）（自立60度⇒車いすへ）
- ・背抜き・足抜き・腰抜きをゆっくりする（リラックス効果・褥瘡予防）



3 頭頸部を軽く前屈させる

- ・顎と胸骨の間隔は4横指程度（端巻きタオル使用、誤嚥予防）
- ・食べ物が見えることを確認する（視覚情報）
- ・姿勢や呼吸状態を確認する（表情や視線・局所圧迫の有無⇒安楽に）

背抜き

4 両上肢を安定させ、テーブルを設置する

- ・両肘をバスタオル等で安定させる（手の重さサポート・自力摂取向上）
- ・テーブルの高さを調整、腹部間隔は握りこぶし程度



端巻きタオル

5 食事が見える位置に置き、必要時介助する

- ・介助者は手指衛生・手袋、患者は手指清拭をする
- ・できる食行動は、セルフケアを促す
- ・介助時は対面を避け顔を離して、逆手介助にならない位置で行う
- ・長柄スプーンを使用し、食べ物は原則舌正中に入れる



全体姿勢30度

6 食事中の観察をする

- ・最小限の会話とし、咳や息が当たらないよう注意
- ・食べ方、飲み方、むせ、食事動作、姿勢の崩れ等⇒誤嚥予防
- ・食事時間は、30分程度とする ・患者・介護者手指消毒

食事介助位置



7 食後のポジショニングをする

- ・ベッド操作：①足↑②上体↓③足↓
- ・ベッドは15度程度挙上で、背・腰・足抜きをする（安楽・胃食道逆流防止）
- ・ねぎらいの言葉をかける ⇒テーブル、エプロン等を消毒する